

平成 23 年 2 月

教育は いま

第 18 号

研究テーマ

応用力をはぐくむ授業の創造
～各教科等における言語活動の充実を通して～

仙台市立東二番丁小・片平丁小・五橋中との共同研究



仙台市教育センター

平成 20 年度～平成 22 年度 調査研究について

仙台市教育センター

I 研究の背景とねらい

1 研究の背景

(1) 調査研究の意義

教育センターの調査研究は、本市教育水準を高めることを目指し、仙台市全体を視野においた教育活動の改善に役立つような具体的方策を探り、その成果を市内各学校や教育関係機関等に提出し、支援を図るとともに、事業の普及・啓発を図ることをねらいとする。

(2) 調査研究事業方針

- ① 仙台市教育委員会の方針・重点施策に関連した学校教育上の当面する諸課題を重点的に取り上げ、調査研究の成果を市内各校に提供するとともに、本市教育の振興及びセンター研修事業の充実に資する。
- ② 今日的な教育思潮の動向を見据えながら、児童生徒の実態に即した教育活動の工夫改善に役立つ実践的研究を行う。
- ③ 平成 20 年度からの調査研究は、共同研究校と共に、授業実践を核とした実践的研究を行う。

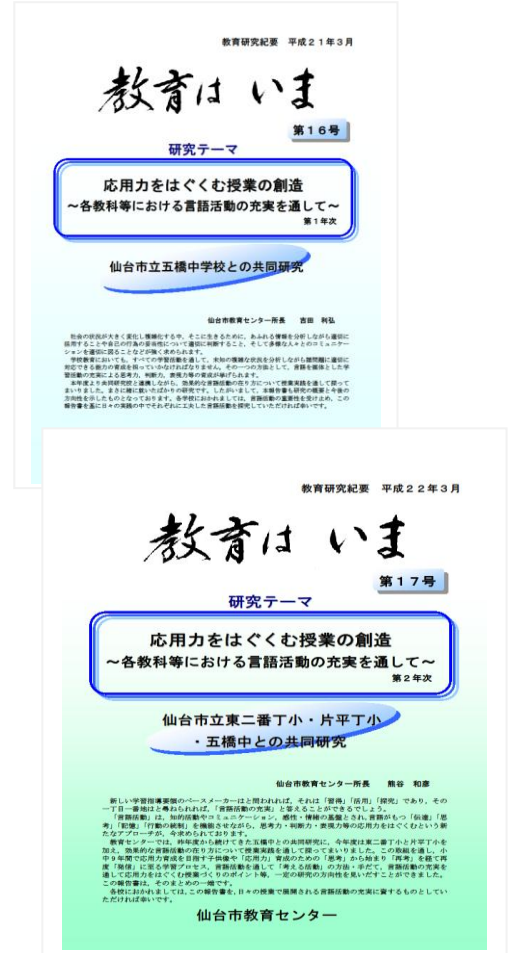
2 研究のねらいと構想

(1) 研究テーマ設定の背景

① 新しい学習指導要領の基本的な考え方から

知識基盤社会の到来や、グローバル化の進展など急速に社会が変化中、次代を担う子どもたちには、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや、他者と切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々との共存を図ることなど、変化に対応する能力や資質が一層求められている。一方、近年の国内外の学力調査の結果などから、我が国の子どもたちには、思考力・判断力・表現力等に課題がみられる。これら子どもたちをとりまく現状や課題等を踏まえ、平成 17 年 4 月から、中央教育審議会において教育課程の基準全体の見直しについて審議が行われた。

この見直しの検討が進められる一方で、教育基本法、学校教育法が改訂され、知・徳・体のバランス（教育基本法第 2 条第 1 号）を重視し、学校教育においてはこれらを調和的に育むことが必要である旨が法律上規定された。さらに学校教育法第 30 条の第 2 項において、同法第 21 条に掲げる目標を達成する際に、留意しなければならないことが次のように規定された。



第 30 条

2 前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得されるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

ここには、学力の重要な3つの要素が示されている。

(ア) 基礎的・基本的な知識・技能

(イ) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等

(ウ) 主体的に学習に取り組む態度

これらを踏まえ、中央教育審議会は平成 20 年 1 月に「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」を答申した。

② 児童生徒の学力・学習状況から

国立教育政策研究所の平成 15 年度教育課程実施状況調査の結果においては、基礎的・基本的な知識・技能の習得を中心に一定の成果が認められるものの、国語の記述式の問題の正答率が低下するなどの課題が見られた。

平成 15 年に実施された経済協力開発機構 (OECD) の PISA 調査の結果からは、子どもたちの学力は、全体としては国際的に上位にあるものの、読解力の低い層の生徒の割合が増加したことや記述式問題に課題があることなどが指摘された。平成 18 年の PISA 調査の結果においては、読解力については平成 15 年の調査結果と同程度であったこと、数学的リテラシーの平均得点が低下したこと、科学への興味・関心や楽しさを感じている生徒の割合が低いことなどの課題が指摘された。

平成 21 年に実施された PISA 調査の結果においては、読解力、科学的リテラシーは上位グループにあること、数学的リテラシーは OECD 平均より高得点グループに位置していることが示された。このうち、読解力については、前回 (平成 18 年) と比べて平均得点が大幅に上昇するなど改善傾向が見られた。これらは、生徒本人はもとより、家庭、各学校が一体となって学力向上に取り組んだ成果の表れだと考えられる。

その一方で、各リテラシーともに、世界トップレベルの国々と比べると依然として成績下位層の生徒の割合が多いことが示された。また、読解力については、必要な情報を見付け出し取り出すこと (「情報へのアクセス・取り出し」) は得意であるものの、情報相互の関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりすること (「統合・解釈」「熟考・評価」) が苦手であることが指摘された。

また、全国学力・学習状況調査の結果において、例えば、資料や情報に基づいて自分の考えや感想を明確に記述すること、日常的な事象について、筋道を立てて考え、数学的に表現することなど、思考力・判断力・表現力等といった「活用」に関する記述式問題を中心に課題が見られた。さらに、知識に関する問題においても引き続き課題が見られるなど、知識を活用する力を育成することと合わせ、基礎的・基本的知識・技能も定着させることが重要となっている。

③ 仙台市の教育施策から

仙台市教育委員会では最重点事項の一つに「確かな学力の向上」を掲げ、「確かな学力育成プラン」を策定している。単にテストの点数を上げることをのみを目的とする近視眼的な施策ではなく、「基礎的な知識及び技能」とそれらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の「応用力」、主体的に学習に取り組む態度である「学習意欲」などを含む広い意味での学力、すなわち「確かな学力」を育成するための施策を実施し、子どもたちが社会で生き抜く力を身に付けることを目指している。

(2) 研究テーマのとらえ

研究テーマ
応用力をはぐくむ授業の創造 ～各教科等における言語活動の充実を通して～

① 「応用力」とは

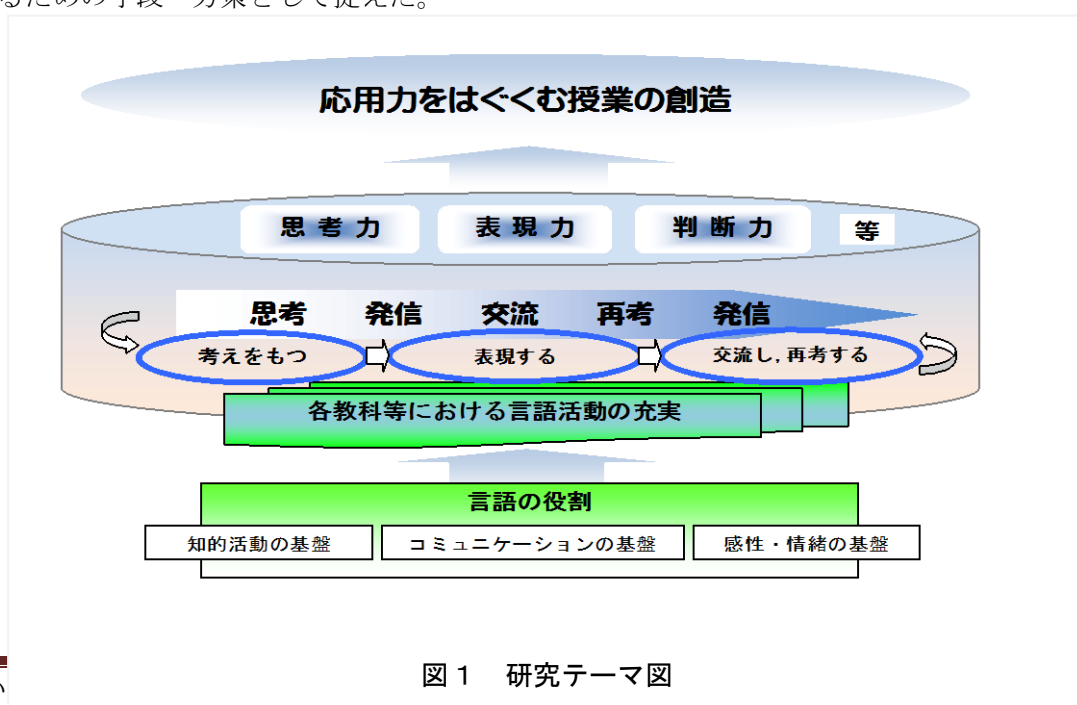
「応用力」を、「基礎的・基本的な知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」と捉えた。

② 「授業の創造」とは

「応用力」は知的活動や、コミュニケーション、感性・情緒の基盤としての言語の役割を踏まえた各教科等における学習活動（基礎的・基本的な知識技能を習得する学習活動、これらの活用を図る学習活動、総合的な学習の時間を中心とした探究活動）を通してはぐくまれるものである。言い換えれば、教師一人一人が一時間一時間の時間を大切にすることによって、児童生徒の「応用力」ははぐくまれていく。そこで、教師の実践的指導力の向上に結び付く実践的研究を指向し、日常の授業づくりに焦点を当てて研究を進めることとした。

③ 「言語活動の充実」とは

「言語活動の充実」は新学習指導要領の中で各教科等を貫く重要な改善の視点の一つである。本研究では国語科に限らずすべての教科等において、授業の本来のねらいである教科目標を達成するための手段・方策として捉えた。



II 研究の方法

1 研究の基本的な考え方

「言語活動」はこれまでの学習活動においても行われてきたものの、思考力・判断力・表現力等の応用力をはぐくむという観点から新たなアプローチが求められている。本研究では授業を「言語活動」という視点から見つめ、すべての教科等において、授業本来のねらいである教科目標を達成するための手段・方策として「言語活動」の充実を図った授業を創造しながら児童生徒の応用力をはぐくむことをねらいとしている。

(1) 学校（五橋中，東二番丁小，片平丁小）と教育センターとの共同研究

平成 20 年度から共同研究校である五橋中学校と、平成 21 年度から同一中学校区である東二番丁小学校、片平丁小学校を加え、小中の 9 年間を通して児童生徒の育成を目指す。

(2) 授業実践を核とした実践的研究

日々の授業において授業実践を核として、各教科等における言語活動の充実を図った応用力をはぐくむ効果的な授業づくりについて、実践的に研究する。

(3) 平成 20 年度から 22 年度にわたる継続型の研究

教育センターの担当指導主事がかかわりながら、共同研究校における授業研究を通して長期的かつ継続的に児童生徒の応用力をはぐくむ。

2 研究計画と研究経過

◆平成 20 年度（第一年次）：研究基盤づくり

共同研究校 五橋中：国・数・道

○「応用力」や「言語活動」の理解 ～新学習指導要領改訂を踏まえて～

○共同研究校との合同研修会の開催

講話「言語活動の充実と『習得・活用・探究』」

講師：国立教育政策研究所初等中等教育研究部長 工藤 文三氏

○各教科等の「言語活動」の洗い出し

○言語活動の充実を図った授業提案

○「調査研究検討協議会」の実施

○研究紀要「教育はいま」16 号の発行



◆平成 21 年度（第二年次）：言語活動の充実を図った授業実践

共同研究校 五橋中：理・社・英

東二番丁小，片平丁小：国+算・理・図・道

○言語活動の充実を図る視点と各教科等の言語活動の具体例についての検討

○共同研究校との合同研修会の開催

講師：静岡県袋井高等学校 教諭 鈴木 秀幸氏

横浜国立大学 教授 高木 展郎氏

横浜国立大学附属教育実践総合センター

研究員 三浦 修一氏

○授業実践事例の検討・提案



- 「9年間で育成を目指す子ども像作成部会」の開催
- 「調査研究協議会」の実施
- 研究紀要「教育はいま」17号の発行

◆平成22年度（第三年次）：言語活動の充実を図った授業の実践と浸透，公開

共同研究校 五橋中：全教科

東二番丁小：国・算・理・社・道 片平丁小：国・算・社・道

- 言語活動の授業実践の充実と浸透
- 研究連携部会の開催
- 「言語活動の充実」が図られた授業の公開
東二番丁小学校：平成22年10月22日（金）
五橋中学校：平成22年11月9日（火）
片平丁小学校：平成22年11月30日（火）
- 「調査研究協議会」の開催



Ⅲ 研究の内容

1 研究の視点

言語活動の充実を図った授業実践のために、授業づくりのポイントを整理した。それらは、児童生徒の発達の段階を押さえたもの、教科等の特質を踏まえたもの等に分類される。共同研究校の特色を生かしながら共通の視点をもって研究に取り組んだ。

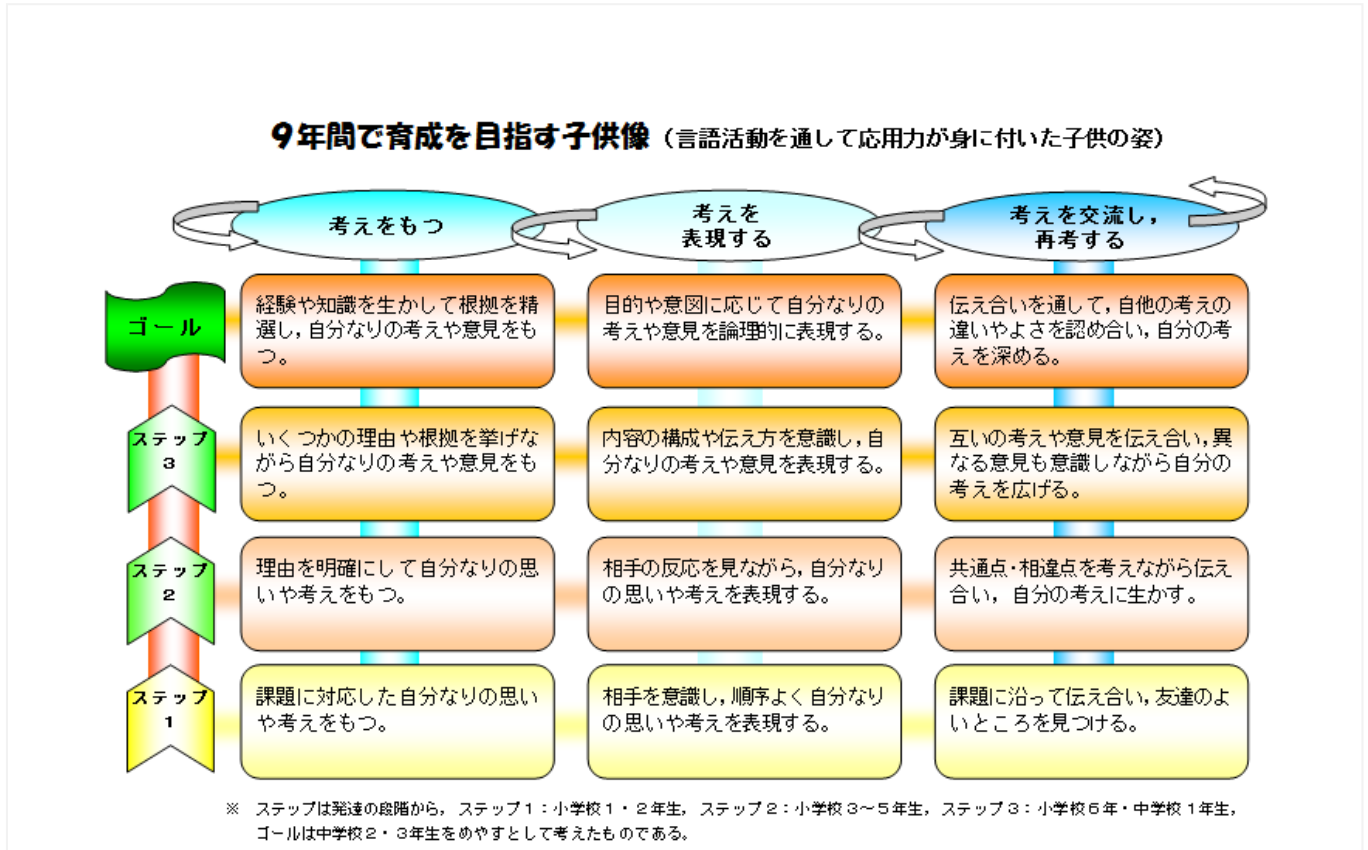
(1) 応用力をはぐくむために重視したい学習プロセスについて

児童生徒に求められる学力観が、「覚える」ことから「考える」ことにシフトしてきている状況から、応用力をはぐくむために重視したい学習プロセスを指導過程に取り入れることとした。それぞれのプロセスにおける概念は、以下のとおりである。

プロセス	内 容
思考	観察や記憶によって頭の中に蓄えられた内容をいろいろに関係付け、新しい関係を作り出すこと。
発信	問題解決を促進するために、自分の考えを順序立てたり、系統立てたりしながら自分の考えを言語に表すこと。
交流	言語を介して、自分と他者が互いに行き来し、交わること。 「受信」のみで終わることなく、論理的に個性的に「発信・交流」する過程で、「受信」能力がより鍛えられ、豊かな「発信」と課題発見・解決の能力も育てられると考える。
再考	問題解決を行う場面や交流などを通して、既存の知識や経験を基に、関係付けを行いながら知識の再構築を行ったり、新たな関係性を見出したりすること。
発信	他との考えを交流し再考することで、振り返って考え直したことなど再構築した自分の思いや考えを他者に向かって発すること。

(2) 小中9年間で応用力の育成を目指す子ども像について

言語活動の充実を図る視点として、＜考える＞＜表現する＞＜交流し再考する＞場面を重視し、小中学校9年間を通して育成を図っていくものとした。これは、児童生徒の言語活動の質的な転換点を段階性のある具体的な子どもの姿で指標を記述したものである。



9年間で育成を目指す子ども像は、本時のねらいにつながり、「評価」の視点になっていく。






(3) 国語科と他教科等の連携について

国語科においては、言語の果たす役割を踏まえて、的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して伝え合う能力を育成することや我が国の言語文化に触れて感情や情緒を育むことが重要である。そのためには、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」、「読むこと」に関する基本的な国語の力を定着させたり、発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行う能力を培う必要がある。

各教科等においては、国語科で培った能力を基本に、それぞれの教科等の目標を実現する手だてとして、知的活動（論理や思考）やコミュニケーション、感性・情緒の基盤といった言語の役割を踏まえて、言語活動を充実させなければならない。

国語科の言語活動例 内容の系統表 (小・中学校)

		調査研究資料					
		小 低学年 1,2年	小 中学年 3,4年	小 高学年 5,6年	中学校 1年	中学校 2年	中学校 3年
<p>A 話すこと・聞くこと</p> 	<p>ア 事物の説明や経緯の報告をしたり、それらから聞いて感想を述べたりすること。 イ 尋ねたり応答したりグループで話し合ったり考えを一つにまとめたりすること。 ウ 場面に合わせてあいさつをしたり、必要なことについて身近な人と連絡を合ったりすること。</p>	<p>ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらから聞いて意見を述べたりすること。 イ 学級全体で話し合ったり考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。 ウ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり聞いたりすること。</p>	<p>ア 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらから聞いて助言や提案をしたりすること。 イ 調べたことやまとめなどを基に、討論したり、それを聞いたりすること。</p>	<p>ア 日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらから聞いて質問や助言をしたりすること。 イ 日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと。</p>	<p>ア 調べたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらから聞いて意見を述べたりすること。 イ 社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行うこと。</p>	<p>ア 時間や場の条件にあわせてスピーチをしたり、それを聞いて自分の表現の参考にしたりすること。 イ 社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合うこと。</p>	
<p>B 書くこと</p> 	<p>ア 想像したことなどを文章に書くこと。 イ 経験したことや観察したことを記録する文章などを書くこと。 ウ 身近な事物を簡単に説明すること。 エ 紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。 オ 伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。</p>	<p>ア 身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。 イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書くこと。 ウ 書いたり学級新聞などに表したりすること。 エ 收拾した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。 オ 目的に合わせた依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くこと。</p>	<p>ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。 イ 自分の課題について調べ、意見を記述したり文章や活動を書いたり文章などを多くの人に伝えるための文章を書くこと。</p>	<p>ア 関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことや文章に書くこと。 イ 図表などを利用した説明や記録の文章を書くこと。 ウ 行事等の案内や報告をする文章を書くこと。</p>	<p>ア 表現の仕方を工夫して、詩歌をつくらせたり物語を書いたりすること。 イ 多様な考えがでる事柄について、立場を決めて意見を述べたり文章を書くこと。 ウ 社会生活に必要な手紙を書くこと。</p>	<p>ア 関心のある事柄について批評する文章を書くこと。 イ 目的に応じて様々な文章などを集め、工夫して編集すること。</p>	
<p>C 読むこと</p> 	<p>ア 本や文章を楽しんだり、想像を膨らめたりしながら読むこと。 イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。 ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読んで、感想を書くこと。 エ 物語や科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。 オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。</p>	<p>ア 物語や詩を読み、感想を述べ合ったりすること。 イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。 ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合ったりすること。 エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。 オ 必要な情報を得るために読んだ内容に関連した他の本や文章などを読み合ったりすること。</p>	<p>ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること。 イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。 ウ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。 エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。</p>	<p>ア 様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること。 イ 文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと。 ウ 課題に沿って本を読む、必要に応じて引用して紹介すること。</p>	<p>ア 詩歌や物語などを読み、表現の仕方について感想を交流すること。 イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。 ウ 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。</p>	<p>ア 物語や小説などを読んで批評すること。 イ 論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと。 ウ 自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること。</p>	

国語科と他教科との連携 ～国語科における言語能力の育成と他教科における言語活動との関連から

国語科における言語能力育成	国語における言語活動	関連する言語活動	＜趣味的思考力を育成する事例＞	＜感性・情緒・他者とのコミュニケーションを育成する教科＞
<p>＜感受・表現＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦悶・暗喩などの技能 ・感性・情緒と関連した表現、修辞を理解する技能 ・筆意政策などの感情を言葉とともに身体などを使って表現する技能 ・文学作品をおとした伝説や文化的背景に関する知識 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明や発表 ・手紙を書く ・登場人物の心情や優れた叙述を味わう。 ・場面や情景について読む。 ・絵や写真について読む 	<ul style="list-style-type: none"> ・描写 ・鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験から感じ取ったことを歌や絵、身体表現など様々な表現方式を用いて表現する活動 ・非言語的活動を含めて、言語力を総動員して意思疎通する活動 ・自己表現や、言語・コミュニケーションの感覚を養う活動 ・日本語の特性に気付き、日本文化について発信する活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験から感じ取ったことを歌や絵、身体表現など様々な表現方式を用いて表現する活動 ・非言語的活動を含めて、言語力を総動員して意思疎通する活動 ・自己表現や、言語・コミュニケーションの感覚を養う活動 ・日本語の特性に気付き、日本文化について発信する活動
<p>＜理解・知識＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実と意見を区別して説明する技能 ・漢字、語彙、文法などを適切に使う技能 ・記載、描写など事実を正確に伝える技能 ・レジュメ、物語のあらすじなど、情報を要約して伝える技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明や発表 ・手紙を書く ・読書 ・報告や意見発表のため文章や資料を作成 ・目的に応じてまとめる ・要約する ・要点をメモにとる ・目的や必要に応じて要約する ・調べてまとめる ・記載文や学級新聞などに表す ・図鑑や時点など活用して必要な情報を読む 	<ul style="list-style-type: none"> ・要約 ・記録 ・理解 ・情報(情報の取出し) ・引用 ・報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・得点を的確にして、事象の差異点や共通点をとらえて、記録・報告する活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・1分間スピーチ、ショー・アンド・テルなど事実を正確に説明・報告する活動 ・問われたことを受け止めて、それに対して明確に答えと理由を述べる活動
<p>＜解釈・説明＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抽象的な用語の意味を理解して説明する技能 ・視点を変えたり他の事象と関連付けたりして、多面的・多角的に物事を見て、的確に分析する技能 ・文章の中の情報に基づき、根拠を持って、筆者の意図を分析し、解釈して説明する技能 ・相手・目的・場面に応じて適切に説明する技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙を書く ・話し合う ・説明や発表 ・手紙を書く ・報告や意見発表のため文章や資料を作成 ・調べてまとめる ・まとめた文章に表す ・整理する ・主題や要旨をとらえる ・図鑑や事典等を活用して必要な情報を読む 	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介 ・説明 ・解釈 ・説得 ・比較 ・分類 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を比較する、分類する、関連付けるなどにより、事象間の関連を説明する活動 ・視点を変えたり他の事象と関連付けたりして、多面的・多角的に物事を分析し、解釈して説明する活動 ・文章や図表、数式などから様々な情報を的確に読み取り、これらを用いて説明する活動 ・基本概念や法則などの意味を理解し、実生活や実社会での具体的な事象に当てはめて説明する活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・視点を交えて相手の立場、第三者の立場に立って、公正さを判断して説明する活動 ・芸術表現から解釈した内容を文章で表現する活動
<p>＜評価・論述＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結論を示した上で、その判断の基礎となる考え方を根拠をもって説明する技能 ・文章の形式や内容について、既得の知識や自らの経験などに照らして評価を行った上で論述する技能 ・複数の媒体やテキスト等を活用して、媒体の特性を踏まえて情報を評価する技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・整理する ・調べてまとめる ・まとめた文章に表す ・報告や意見発表のため文章や資料を作成する ・図鑑や事典等を活用して必要な情報を読む ・自分の感想や考えをまとめる ・見方や考え方を養う ・表現の仕方や文章の特徴に注意して読む ・書いた文章を推敲、評価、批判する。 ・スピーチする ・説明や発表 ・報告や意見発表のため文章や資料を作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告 ・熱考、評価 ・論述 ・発表 ・解説 ・スピーチ ・批評 ・感想 ・説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・筋道を立てて説明する活動 ・帰納的な考え方、演繹的な考え方などを活用して説明する活動 ・一つの事象について様々な媒体による様々な主張を踏み比べて、既得の知識などに照らして評価を行った上で論述する活動 ・仮説・予想→観察・実験・資料活用→文章や図表などで結果を整理し、考察し工夫改善する活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動を振り返り、そこから学んだことを記述する活動 ・体験から実感したこと、考えたことを基に、自らの生き方を考え、詩や文章などにまとめる活動 ・構想→創作→文章などで結果を評価し、工夫改善する活動
<p>＜討論・協同＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・討論、議論などを通して、建設的な合意形成を目指す技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に話し合う ・スピーチする ・尋ねたり、応答したりする ・尋ねたことをまとめる ・読書発表会 ・対話や討論を行う ・話し合う ・資料を提示しながらスピーチする 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話 ・スピーチ ・討論 ・質問 ・助言 ・意見 ・応答 ・話し合い 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験・調査などにおいて、仮説・予想の設定、結果の検証、結果の解釈などの場面で、討論しながら考えを深め合う活動 ・課題追究において、まずは既得の知識や自らの経験に基づいて考え、判断させ、その上で他者の意見や資料を活用して考えを深めさせることで、議論の深まりを実感させる活動 ・創作活動、未定予測などの正解が一つでない課題や答えに至る道筋が複数ある課題を討論し、答えを導き出す活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・討論・議論などを通して、意見の異なる人と協同的に議論する態度や意見の対立を解決する方法を身に付けるのに必要な活動

(4) 言語活動の充実を図った授業づくりのポイントについて

前述の取り組みを授業づくりに生かせるように、「言語活動の充実を図った授業づくりのポイント」を作成した。教科等の特性を生かしながら、共通の視点を押さえ授業づくりができるように考えた。

言語活動の充実を通して応用力をはぐくむ授業づくりのポイント

各教科等において、教科の目標を達成させるための手段・方策として言語活動の充実を図りながら、応用力をはぐくむ授業づくりを実践しましょう。

例：中学校 技術・家庭(家庭)

題材：中学生の1日の献立

指導内容	内容
※ 思考	○ 何をどのくらい食べたか、ある休日の食事調査をする。
発信	○ 記録した結果をもとに、食品群に食品を 分類 する。 考えをもつ
交流	○ 日常食品の概量を一覧にした資料をもとに食べた量を書き出し、表を完成させる。 表現する
再考	○ 作成した食事調査の結果をもとに、食品群別摂取量の目安と 比較 し、自分の食事の特徴について 意見交換 する。 交流し再考する
発信	○ 自分の食事の特徴について、今後の改善点をまとめる。

言語活動例

記録	要約	説明	論述	発表
討論	解説	鑑賞	報告	紹介
質問	助言	対話	意見	
スピーチ	説得	批評	引用	
感想	交流	比較	応答	
話し合い	提案	連絡	推薦	
メモ	……			

- 1 指導計画の中で、言語活動の充実を図ることが効果的である指導内容を取り上げましょう。
- 2 指導のねらいを明確にしましょう。

【指導のねらい】食品群別摂取量の目安を用いて、中学生の時期の望ましい1日分の献立について考える。
- 3 指導内容に学習プロセスを組み入れましょう。

※ 思考 → 発信 → 交流 → 再考 → 発信
- 4 言語活動の充実を図る視点を取り上げましょう。
 <考えをもつ><表現する><交流し再考する>
 話す・書く
- 5 「考えをもつ」活動を重視しましょう。
 ※ マトリクス法(収束的) ウェブリング(拡散的)……
- 6 言語活動の具体例で該当する学習活動を取り上げて充実を試みましょう。 ※**比較** **分類**……
- 7 言語活動の充実を通して、育成したい子供像を考えましょう。
 ※9年間を通して育成を目指す子供像「学びのステップアップシート」活用

互いの意見や考えを伝え合い、異なる意見を取り入れながら、今後の改善点に生かし、自分の考えを広げる。

- ### 授業づくりのポイント

 - 1 学習指導要領及び解説の把握
 - 2 児童生徒の実態・課題の把握
 - 3 目指す児童生徒像の設定
・学習課題の設定
 - 4 授業構想・課題解決策の検討
 - (1) 題材(単元)
 - (2) 指導方法
 - (3) 教材・教具
 - (4) 指導形態
 - 5 授業実践・課題解決
 - 6 評価(学習評価, 授業評価)
 - 7 授業改善策の把握

IV 研究の成果と課題

今回の調査研究は、前述の通り授業実践を核とした実践的研究とした。三年間の取組を以下の表にまとめた。研究の成果の具体は、共同研究校の実践研究の資料に詳しく示されている。

< 3年間の調査研究のまとめ >

研究、実践内容	○成 果	・課 題 ◇方 策
研究構想, 研究テーマ図	○言語活動の役割のとらえ, 授業における言語活動の充実の位置付けの明確化が図られた。	
ステップアップシート	○言語活動の充実を通してどのような力を付けたいのか明確にすることの確認ができた。	・各教科の評価に使うには, 視点が不明瞭。 ◇国語科で培った力と他教科との関連が見えるものにすれば, 活用の範囲が広がる。
学習プロセスの重視	○各教科で言語活動を取り入れた授業をつくっていく場合の基本理解として有効であることが, 共同研究校の実践からわかった。	・「課題をもつ」視点の欠落, 矢印の向き等現状にそぐわない部分も出てきた。 ◇学習プロセスではなく, 拡散的思考・収束的思考の明確化とそれに見合う学習形態の取り入れ方等もう少し踏み込む必要がある。
国語科と他教科との連携	○「国語科の言語活動例 内容の系統(小・中学校)」を資料に示し, 他教科の年間指導計画等に位置付けていくことの大切さを確認した。	・言語活動例の具体的なとらえが不十分。 ◇言語活動例のとらえがより明確になれば, 各教科等における関連性も位置付けやすい。
三校の研究から	○児童生徒自ら考える授業, 児童生徒が進んで説明し合う授業, 児童生徒同士が話し合い学び合う授業を目指した授業づくりができた。	・知識, 技能を活用する学習活動の明確化を掲げたが, 各教科等のとらえ方のばらつきや言語活動の位置付けが不明確な部分が見えてきた。 ◇上述の方策に関連させ, 今後検証していきたい。 ・説明する力で積み重ねてきた, 伝え合う力や分かり合う力を各教科等の中でどう関連させるのか不明確である。 ◇三年間の取組を整理し, より分かりやすいモデルを作成していきたい。 ・言語活動の充実が, 思考力・判断力・表現力等の育成にどのようにかかわっていくのかより明確になるとわかりやすい。 ◇上述のとおり, これまでの実践を生かし, わかりやすいモデル(例)に整理したい。

東二小 話合い名人【5・6年】
相手の意図をつかみながら聞く。
・要点をメモしながら聞く
自分と違う考えに気付いて、自分の考えを見直す。
・「○○さんは」と言っていました。わたしは〜と考えます。」
のように考えを引用したりまとめたりする話し方をする。

○学校全体での共通した取り組みが, 児童生徒の表現力を高めるのに有効だった。
○「説明する力」における, 具体的に身に付けさせたい力が明確になった。
○「説明する力」と思考力・判断力・表現力等の関連性が図られた。
○研究授業のシステム化が提案できた。

文部科学省は、総合的な学習の時間を核とした課題発見・解決能力，論理的思考力，コミュニケーション能力等の向上に資する指導の在り方について、『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（総合的な学習の時間を核とした課題発見・解決能力，論理的思考力，コミュニケーション能力等向上に関する資料）』（平成22年11月）を作成しており，平成23年1月12日に出された「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」も合わせ，この調査研究の成果を関連させながら効果的に活用する方法を探っていきたい。



